

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 28 年 9 月 20 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470203310		
法人名	有限会社メディカルサービス廿日市		
事業所名	グループホーム三滝ひまわり		
所在地	広島市西区三滝本町2丁目25-10 (電話) 082-230-0888		
自己評価作成日	平成28年7月29日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=3470203310-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成28年9月15日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

当施設では地域に開かれた施設を目指して、町内会で行われる行事やサークル活動へ積極的に参加している。地域の環境、住環境を活かし、近くの公園までの散歩を楽しんだり、平屋の作りを活かし、入居者の方も両棟を自由に行き来できるようになっている。全室に鍵と洋式トイレが設置しており、プライバシーの確保に配慮している。介護職員は毎月同法人グループでの勉強会とグループホーム独自の認知症介護に関連した内容の勉強会を行い、知識の向上に努めている。日々の関わりでは認知症になっても出来る事、わかる事に着目し、ご家族と共に出来る事を喜べる関係を目指している。また季節を感じながら、楽しめる行事を企画し支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

平成14年6月開設のグループホームである。事業所は閑静な高台の住宅地の中に立地し、周囲は緑に囲まれ自然豊かでありながら、市街地から比較的近い場所にある。また、事業所の広い敷地を生かして全て平屋建ての構造となっており、利用者や職員も移動しやすく開放的な環境で過ごしている。また、近隣への散歩や畑づくりを通じての交流のほか、地域とともに防災活動に取り組むなど、地域に開かれた事業所を目指している。
さらに、法人全体で職員研修に力を入れており、サービス向上のための様々な委員会活動がなされているほか、事業所内においても独自の研修を重ね、職員も積極的に研修に参加しており、日々サービス向上のための取り組みがなされている事業所である。

自己評価	外部評価	項目	自己評価(東棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念を念頭においてサービスを実地する為に勉強会を開催し、全員の意見を聞き、ケア目標を作成し、朝礼時に唱和している。	法人全体の理念に基づき、事業所の理念を決めている。さらに、事業所独自のケア目標を定めるため、職員自らの言葉で候補を募り、全体会議で決めている。このケア目標は、前年の評価も踏まえ、反省点を精査し、毎年作り直されているため、職員の考えが反映されたものになっている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	散歩や地域の行事に参加したり、月に2回の集会所での合唱会や、季節ごとの町内掃に職員、利用者共に参加している。	近所に母体法人が運営する老人保健施設があり、夏祭りやバザーなどの合同行事を通じて地域交流を進めている。また、地域の集会所で合唱会を行うなど、日ごろから事業所と地域との付き合いを深めている。その結果、災害対策の市への陳情を地域で行うなど、地域との協力体制もできている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	法人全体で情報を共有し、地域との協力体制を作っている。要望があれば、認知サポーター養成講座にも協力している。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2か月に1度開催し、ご家族様、町内会長、地域包括支援センターへの活動報告と行事の写真を見て頂いている。不参加の方には郵送し、職員は、議事録で確認してもらい、今後のサービス提供に繋げている。	親しみやすく「ひまわりの会」という名前で運営推進会議を行っている。町内からも代表が参加し、砂防堰堤の署名をはじめ、地域の防災活動を共にしているほか、ボランティアの情報提供など、様々な意見交換がなされている。写真付きで議事録を家族に送り、理解を深めて頂いている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	事業所として出来る事は積極的に協力している。また介護保険課の担当者に必要なことは報告している。困難事例があれば相談も行う姿勢でいる。事故報告書など必要な書類は迅速に送付している。	母体法人が中心となって市当局と相談や意見交換を行っているほか、事業所においても必要に応じて、区や地域包括支援センターに相談を行っている。また、認知症サポーター養成講座にも講師としてアドバイザーを派遣するなど、市との協力関係の構築に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価(東棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束をテーマに、年に2回、研修会をおこなっている。また利用の際、ご家族にも説明している。止むを得ず拘束をする場合は、管理者、相談員より説明し、同意を頂いている。</p>	<p>身体拘束をしないケアの実践のため、母体法人の老人保健施設と合同で、年間計画を立て研修がなされている。法人の委員会活動においても、身体拘束防止の勉強会や会議がなされている。また、やむを得ず身体拘束を行わざるを得ない場合の体制も整備されているが、現在、身体拘束は行われていない。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>虐待防止をテーマに、年に2回研修会をおこない、虐待に対する意識を高めている。事業所内で虐待が起こらないように、職員のストレス管理も行っている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>ご家族から相談を持ちかけられれば対応している。職員の知識の向上の勉強会を、関連施設と合同で、年に2回行っている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時にご本人又は、ご家族にわかりやすく説明を行い、納得された上で契約の締結をしている。不安、疑問点はいつでも聞いて頂くよう、声を掛けている。不安が残らない様に、その後のフォローにも気を配っている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>ご本人、ご家族からの意見は記録に残し、カンファレンスで話し合いを行い、サービス向上委員会や、再度検討している。運営推進会議でも報告している。</p>	<p>利用時に、アセスメントシートを用いて利用者の意向を把握しているほか、家族からの聴き取り、日ごろの様子を踏まえて職員記録にも日々記載し、本人の意向を共有するようにしている。また、家族からの意見や要望に対しては、その都度、具体的に対応するようにしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価(東棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>月に1度、全体カンファレンスを行なっている。欠席者は意見を用紙に書いて、事前に提出している。連絡事項はノートなどを活用し、申し送りでも再確認している。ユニットごとに問題があれば、その都度話し合いも行っている。</p>	<p>カンファレンスを月1回行い、参加できない職員も書面参加で意見具申できる。法人本部職員の巡回で意見を収集しているほか、法人内イントラネットなどで意見を反映する方法が複数ある。その結果、戸締りに関する意見が職員から出る等、事業所の運営に反映がなされている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>毎週、現場を確認し、管理者より報告を行なっている。必要時にも電話やメールにて報告を行ない、指示、アドバイスをしている。又人事考課も取り入れている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>関連法人グループの研修を月に1度、グループホーム内の研修を月に1度行っており、研修後は現場で生かせるような内容になる様に工夫をしている。必要に応じて、外部研修にも参加しており、現場にフィードバックするように、研修報告書は職員も回覧するようにしている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>法人内のグループホーム（5事業所）と2ヶ月に1度、話し合いの場を設け、事業所の状態や取組みの意見交換等を行っている。今年度は交換実習を行い、報告書を回覧し、情報を共有している。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>ご利用者お一人おひとりに職員担当をつけ、その職員を中心に、面接時の情報を確認しながら、ご本人様の想いを知り、記録することで、情報の共有を行っている。ご家族からも情報を頂いている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(東棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	面接時、見学時の情報を記録に残し、共有している。これまでの生活歴など本人様、家族様に確認し、情報の共有を行っている。利用開始日の夜間と次の日の朝には、必ず電話にてご本人の状況を伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	介護保険制度のサービスについて必要に応じて情報提供し、担当のケアマネジャーに相談しながら、話しを勧めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	本人の想いを尊重し、意見を聴いてから行動するようにしている。ご本人の好きな事、得意な事を一緒に行い、共に喜ぶことのできる関係作りを目指している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	職員は面会時に近況を報告し、日々のご様子を知って頂けるようにしている。また、ご家族だけで過ごす時間、職員も含めて過ごす時間の必要性を考え、誕生日会などを計画、相談し、ご家族と共に本人も支えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族に協力頂き、馴染みの物を持ち込んだり、馴染みの場所などの情報をもらったりしている。可能であれば、馴染みの場所にご家族と共に出かけている。	家族の面会のほか、遠方の家族には手紙や電話の介助を行い、つながりを大切にしている。また、以前本人がよく行っていた場所に行くことや、墓参りなど、場合によってはケアプランに位置付け、家族と共に利用者を支える意識を共有してもらいながら、関係継続の支援に結び付けている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価(東棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。</p>	<p>利用者の方の心身の状態が異なり、トラブルもみられるが、職員が介入し、利用者同士の関係が構築できるように見守り、関わりながら、気を配っている。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。</p>	<p>利用後は、本人、家族の意向を確認しながら相談の上、同法人全体でバックアップしている。利用後も希望があれば、再契約を行っている。</p>		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	<p>○思いやりや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>カンファレンスを通じてニーズや問題点を探し、ケアプランに反映している。ご家族の声かけによる意向の把握も必要である。</p>	<p>「センター方式」と呼ばれる、本人の思いを反映したアセスメントシートを活用し、本人の細かな要望や意向をできる限り反映し、日ごろの介護や接し方に結び付けている。情報収集では家族の協力も得ながら、本人本位に検討がなされている。</p>	
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。</p>	<p>ご家族やケアマネージャーより、情報を頂いている。</p>		
25		<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。</p>	<p>日々の様子を生活行動記録に記入している。カンファレンスで職員間で情報を共有し、利用者の現状把握に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(東棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>担当者を中心に、半年ごとにプランを見直し、3か月ごとにモニタリングを行っている。ご本人、ご家族の意向を反映し、作成している。</p>	<p>介護計画を作成した場合、1か月後、3か月後、半年後というように見直しをしている。一人の職員が2～3名の担当を受け持ち、本人や家族の意向を踏まえ、現状に即した介護計画に、随時見直しが行なわれている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>本人の発言、行動を中心に記録し、必要に応じて連絡ノートに記入し、職員間で共有している。カンファレンスで生活行動記録を参考に話し合い、介護計画を見直している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>急遽の病院受診の場合など、ご家族が同行出来ない場合は職員で対応している。ご家族の希望も確認しながら、外出、外泊の支援も行っている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域の清掃活動、町内の季節ごとの行事や合唱会の参加など、地域の方との交流を持てる場を提供している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>2週間に1度、定期受診し、主治医には利用者の方の日々の様子を報告している。ご家族の方には面会時、または電話にて体調面等お伝えしている。</p>	<p>系列の医院にて2週間に1回、定期受診介助を行い、結果を家族に報告しているほか、利用前に受診していた医療機関にも家族対応で受診することができる。また、歯科や皮膚科は訪問診療にて対応している。さらに、利用者の生活記録に記載し、職員間で健康状態の把握に努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価(東棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	週に1度、医療連携の看護師の往診があり、相談している。電話等でも常時に相談が出来る体制になっている。		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	病院の相談員と情報交換を行い、退院に向けての相談を行っている。電話だけでなく、直接に訪問するようにしている。		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	主治医に相談しながら、家族の方と重度化した場合の対応について話をしている。必要であれば、主治医より説明を行なっている。ご本人、ご家族の意向をできるだけ尊重できるように、代弁も行っている。	利用時に一通りの説明を行っているほか、実際に重度化した場合のマニュアルも整備し、家族への説明、経過記録、医療との連携も含め、対応がなされている。その結果、実際に看取りのケースにも対応でき、家族とも密にコミュニケーションをとりながら、対応がなされている。	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	早期発見を心がけ、マニュアルも作成しているが、実践訓練が行えてない。勉強会は年に1度行っている。		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	マニュアルを作成し、消防職員、家族の方立ち合いの避難訓練を年に1度と、同法人グループと合同の避難訓練を、毎月行っている。また同法人グループの応援体制も整っており、マニュアル化している。	母体法人と合同で、毎月避難訓練を行っているほか、年1回、消防署の立ち合いのもと、実際に利用者の誘導も含めた訓練を行っている。3日分の食料備蓄や、地域住民と共に土砂災害対策の市への働き掛け、防災マニュアルの地域との共有も行われているなど、地域との協力体制を構築している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価(東棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者を人生の先輩として接し、相手の立場に立って声かけを行なっている。職員間でも注意し合える関係を目指している。利用者に関する情報は外部に漏らさない様に徹底している。	トイレ誘導時の声掛けに配慮したり、名前をきちんと呼ぶ、周囲に配慮した言動など、職員の接し方には日ごろから配慮がなされている。また、利用者の居室は利用者が内側から鍵をかけることができ、プライバシーに配慮している一方で、居室内に鈴をつけるなど、安全面にも配慮がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人の意向を尊重し、選択できる場面をできるだけ作るように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	今までやってこられた事や好きな事を意識し、役割を持った生活が送れるように支援し散る。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	季節感のある服を本人とともに選んだり、外出時には女性はお化粧、男性は髭剃りなどの声かけやお手伝いをしている。鏡を見ながら、ご本人に出来るところまではして頂き、そのうえで援助している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	調理や食器洗いなど一緒に行っている。メニューは利用者の方に食べたいものをお聞きし、取り入れている。	食事はユニットごとにメニューが異なり、冷蔵庫の中身を見ながら、利用者の意見も考慮して決められている。食事作りも利用者とともに、食材は基本的には材料のみ配達だが、利用者と一緒に足りないものをスーパーに買い出しに行くなど、食事を楽しむことのできる配慮がなされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価(東棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>主食も肉と魚が続かないように工夫し、野菜を多めに使用するように心がけ、食事時には必ず汁物を付ける様にしている。体重の管理を行い、主治医に相談しながら、食事量を調整している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>食後の口腔ケアの声かけ、介助を行い、清潔面だけでなく、誤嚥を防ぐ為にも、口腔ケアについての勉強会を年に1度、歯科医師を講師に行っている。何かあればすぐに相談できる訪問歯科が在る。一部の利用者の方は週に1度、嚥下機能のリハビリもお願いしている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>日中、可能な限り布パンツを使用し、汚染確認を行っている。紙パンツを使用している方は、布パンツで対応できる時間帯など話し合い、実施している。 新人職員はオムツ体験を行い、オムツの不快感を体験してもらっている。</p>	<p>18名の利用者中、12名が布パンツを使用しており、必要に応じて夜間のみ紙パンツを使用している利用者もいる。オムツに関する勉強会も行い、なるべく本人に不快のない方法で介助を行っているほか、職員もオムツ着用体験を行うなど、利用者の排泄の自立に向けた研鑽が行われている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>毎日の排便確認と毎朝の食事やおやつに、乳製品や野菜ジュースなどを取り入れている。便秘の原因がそれぞれ違うことを理解し、水分を多くとってもらい、運動量を増やすなど、個別に対応している。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の場合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>毎朝バイタル測定を行ない、問題がなければ、日勤帯ではあるが、時間帯等なるべく本人の希望にて、入浴して頂いている。</p>	<p>利用者は、週2回から3回入浴することができ、希望すれば毎日入浴することもできる。事業所のお湯は温泉水となっており、入浴後は湯冷めしにくい。入浴ができない利用者に対しても、1日2回清拭を行うなど、個別に対応がなされている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価(東棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>前日の夜間の状態を把握し、日中の体調も考えながら、必要な方には日中、臥床時間を設けるようにしている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>服薬ファイルの作成や、処方された薬の説明書を個人別に整理し、職員全員が把握できるようにしている。内服薬の変更時は申し送りを行い、連絡ノートへ記載し、内服確認表へも付箋を貼り分かるようにしている。配薬ミスのないよう、出勤者でダブルチェックを行っている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>ご利用者お一人おひとり、出来る事に違いがあり、想いも違う事を念頭に置き、分担して頂きながら、職員と共に家事を行っている。声掛けの方法に工夫しながら、役割を持って頂き、自信につなげている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>ご家族に相談し、外出、外泊をお願いしている。外食はご家族様と職員が共に出かけている。地域行事や法人での行事にも積極的に参加している。連泊で外泊される場合も対応している。</p>	<p>日頃から事業所の周囲の散歩や隣接する畑に出ているほか、スーパー、居酒屋、動物園、野球観戦、猫カフェなど、多彩な外出先に出かけており、利用者に喜ばれている。家族による外出にも、準備を含め積極的に支援している。</p>	<p>例えば、あらかじめ外出の行き先を告知するなど、利用者、職員、家族皆が楽しみを増すことで、現在取り組んでいる多彩な外出が、より一層、利用者や職員、家族との交流が深まる機会になることを期待する。</p>
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>ご本人の希望で、なにか購入する場合はご家族に了解を得て行っている。レジでのお金のやり取りも大切だと考えている為、可能であれば、本人と共に日用品の買い物に出かけている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(東棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>ご家族に事前に了解を得て、本人の希望時には連絡をしている。ご家族から郵便物が届いた場合は、ご本人と共に連絡している。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>リビング内はできるだけ明るく光を取り込み、夏にはブラインドで暑さの調整をしている。また、季節を感じていただけるように、見えるところに季節の花を飾っている。写真や季節の物も展示している。</p>	<p>事業所の廊下には、日頃の利用者の様子を写した写真を多く貼ることで、明るい雰囲気を感じられる。また、事業所は風通しもよく、明かりも多く取り入れた構造となっているほか、水槽の魚やペットの犬など、周囲を和ませるような配慮もなされている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>集団で何かを行う時と、個別で行う時を、その都度、机の配列を変え行っている。普段も団欒の場を大切にしている。個別で行うことを希望される方には、配慮している。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>棚、椅子、TV、家族写真など、使い慣れたものや、近くにあることで安心感につながるものを持参して頂くよう、家族の方にも協力頂いている。家族写真やアルバムなどの持込み等もお願いしている。</p>	<p>居室は専用のトイレや洗面台があり、スペースも広いため、清潔な空間を保つのに役立っている。また、居室も収納が多く、部屋によっては畳で床の間もあるため、落ち着ける空間となっている。利用者が親しんだ家具を持ち込むことができるなど、居心地よく過ごせるような配慮がなされている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>転倒を防ぐ為に、職員間で話し合いを行いながら、家具の配置に気を配っている。再々の模様替えは、混乱する事も認識して避けている。ベッドの位置などは、個々に合わせて変更している。</p>		

V アウトカム項目(東棟)			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム三滝ひまわり

作成日 平成28年10月11日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	18	外出は毎月計画し実施しているが、当日だけで終わらないように工夫をしてはどうか	外出の楽しみを待つ時間からを大切に考え、入居者、家族、職員で共有する。	毎月の外出予定を廊下などみんながよく見えるところに貼り、共有する。	1ヶ月
2	1	年間目標を毎年考えているが、短期間での目標の設定があればやる気の向上につながるのではないか	毎月の目標を掲げ、唱和する。	管理者が毎月の目標を考え、事務所に張り出し、毎朝唱和する。評価は全体カンファにて行う。	1ヶ月
3	3				
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。